

# STSJ NEWSLETTER



A quarterly newsletter of the Sail Training School of Japan

日本セイルトレーニングスクールニュースレター

Volume I, Issue 1 (創刊号)

Spring-Summer 2011

## 心を育て、 絆が深まる 大海原へ!



私たち日本セイルトレーニングスクールでは、セイルトレーニング（帆船を使った体験学習）を通じて、青少年の「心の知能指数（EQ）」を伸ばし、心の豊かな社会性のある若者を育てる社会教育プログラムの実践を目指しています。

◇◇◇◇◇ 3月11日の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。 ◇◇◇◇◇

### TOPICS



- p1. 出帆～その先へ
- p1. PR 活動@横浜開港記念館
- p2. セイルトレーニングとは
- p2. 教育効果の「見える化」
- p3. EQって何?
- p3. 『あこがれ』上海航海調査結果
- p4. STSJ 沿革
- p4. 事業紹介
- p4. 会員募集/寄付等をお願い

### 出帆～その先へ

私たち日本セイルトレーニングスクールは、かつて横浜で行われていた帆船『海星（全長46m、180総トン、定員45名）』でのセイルトレーニングに船長・乗組員・ボランティアスタッフとして深く関わってきた帆船スタッフと、現在の日本の青少年教育に疑問を持ち「頭の良さ」だけではなく「心の豊かさ」を高めることが不可欠と考える教育関係者・企業・一般市民らが力を合わせ、社会全体で海国日本の未来を担う青少年を育成する

仕組みを作ろうと活動しています。深刻化する教育格差の拡大、急速なIT化などで目の前にいる仲間との人間関係が上手く築けなくなっていく社会の中で、自然の力・風を活かして帆船を乗船者皆で一つの目的地に向けて走らせるセイルトレーニングという非日常体験は、自らの無限の可能性に気付き、仲間と力を合わせることの大切さや相手を思いやる気持ちを芽生えさせてくれる教育手法として、大きな可能性を秘めていると私たちは考えています。STSJでは現在、帆船『あこがれ』を



はじめとする帆船運航団体の協力を得て、セイルトレーニングの教育効果の「見える化」とその効果的な活用法の調査研究を進めています。また、駿河湾を拠点に活動している帆船『Amij』をチャーターしたセイルトレーニング事業、インストラクター養成航海などを並行して実施。今後の目標である中型帆船の購入・運営を目指した独自プログラムの開発に取り組んでいます。創刊号となる今号では、セイルトレーニングや教育効果測定のベースとなる「EQ」の紹介に加え、これまでの調査の検証結果についてお伝えします。

### PR活動@横浜開港記念館



去る2010年5月29日、横浜市開港記念会館講堂にて横浜龍馬会主催『Ryoman on My Mind～わが心の龍馬～』と題するイベントが開催されました。このイベントは、今までになく龍馬の存在にスポットライトが当たったこの時期、『志』を持つ人々、持ちたい人々が集い交流・触発を促す場として開催されたものです。

前横浜市長・中田宏氏による特別講演、ユナイテッドピープル株式会社の関根健次氏による基調講演に続き、各地の団体が一般市民に向けて講演を行いました。この中で、キッズキックボクシングスクールを通じて青少年育成やいじめ問題に取り組む水戸龍馬会の活動報告に続いて、私たちSTSJの設立経緯や活動報告、将来目指すものについて、栗原理事がセイルトレーニングとは何か、なぜ今セイルトレーニングなのかといったことをプレゼンテーション。多くの一般市民の方々にSTSJの活動を知っていただく貴重な機会となりました。

# セイルトレーニングとは

~ One for all, All for one ~

セイルトレーニングとは帆船を使った自然体験学習の総称で、欧米では盛んに行なわれています。



体験者はトレーニーと呼ばれ、帆船の乗組員として操船や船の保守などの作業に加わります。目的地に向けて船を走らすために帆を広げたり畳んだり、帆の向きを変えたり、舵を取ったりとあらゆる作業を全員で力を合わせ、迅速かつ確に行わなければなりません。

刻々と変化する自然環境の中で、そのような協働作業をすることによって、今何をすべきかを考える確かな指示を出すリーダーシップ、少ない人数で大きな船を動かすためのチームワーク、一人ひとりが為すべき事を考える自主性、チャレンジ精神、他人への思いやりなどが育まれ、人間的に大きな成長をもたらす、これがセイルトレーニングの大きな魅力です。

そして、航海中に学んだことが体験者の心に深く刻まれ、無意識のうちに日々の生活の中に反映されるなど、セイルトレーニング体験で大きく人生観が変わった人が多いことも大きな特徴といえます。

STSJでは、「これからの日本を担う青少年」の育成のために私たち大人ができる『社会教育』の視点から、セイルトレーニングを次のように特徴づけました。

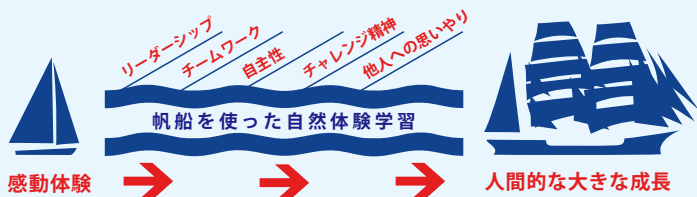


- ① (基本的には) 初めて一緒に船に乗り合わせた者同士がチームを組み、「期間内に目的地まで安全に船を航海させる」という目的を成し遂げるために力を合わせる。また、このためにはボランティアや同乗する市民など様々な大人との協力が求められる。
- ② 大自然の中で「頼れるのは数十人の乗組員だけ」という状況下で、一人一人がお互いを信じ合い、仲間を思いやる人間関係が自然発生的に構築される。
- ③ 誰かが何かをしてくれるというのではなく、「自分

は何ができるのか」という積極的な発想が生まれてきやすい環境が自然に整備されている。

このように、セイルトレーニングは普通の生活では得がたい非日常生活の体験ができるという、大きな特徴をもった教育プログラムです。

そして、この非日常体験による気づきを人格形成に最も大きな影響を及ぼす青少年期に受けた場合、その後の人生にも大きな(良い)影響を及ぼすということが、欧米での調査結果からも明らかになってきています。



## 教育効果の「見える化」

セイルトレーニングを「教育」として論じる以上、その教育効果を具体的に明らかにしていく必要があると私たちは考えます。

国語や算数などの教科と違い、これまで自然体験教育において、その教育効果を定量的に数値で示すことには難しいものがありました。

セイルトレーニングも同様、参加者の体験感やアンケート結果等がその効果を探る手段として用いられてきましたが、客観性に欠けるためその有用性を実証するのが難しく、これまで国内において、レジャーの一環としてみられがちであったことは否めません。

また参加者が体験成果を実感し、その後の社会生活に反映させていけるようなデータ採取、参加者へのフィードバックが不可能でした。

これらの状況を踏まえ、私たち STSJ ではセイルトレーニングの教育効果のデータ採取に用いる手段として「EQ (こころの知能指数)」に着目しました。参加者が体験前(乗船時)に抱く心理状態と、体験後(下船時)に抱く心理状態を、このEQを元

にした検査ツールを用いて測定し、セイルトレーニング体験前後のギャップを教育効果として捉えると同時に、体験者へフィードバックすることで、その後の社会生活を送る上での自信につなげていけるのでは、と考えています。

STSJでは、セイルトレーニングを「心育て、仲間との絆が深まる社会教育の場」として広く青少年に提供していくため、独自の教育プログラムの開発と、その為のより効果的な調査方法を検討し実践していきます。今後の調査結果に関しては随時、このニュースレターやホームページ上にて公開していく予定です。



# EQって何?



## ~ Emotional Intelligence Quotient ~

IQが「知能の高さ」を数値として捉える指数ということは多くの人に知られています。しかし、「心の豊かさ」を数値として捉えるEQ (Emotional Intelligence Quotient: 心の知能指数) という概念があることをご存知でしょうか?

20年ほど前に米国で発表された概念ですが、それまではあくまで「概念」でしかなかったこのEQを、定量的に測定する手法がEQ Japanによって開発(1998年)されたことにより、人材育成の場で「人間力」を伸ばすための判断材料として、特にビジネスの世界で脚光を浴びています。

そして最近では、EQという概念の重要性に気づいた国内の学校や塾などの教育現場でも、EQ教育を導入する機会が少しずつ増えてきました。

- 🌟 EQは教育やトレーニングによって「伸ばす事が可能」な能力
- 🌟 EQが高いほど社会生活に柔軟に適應できる
- 🌟 航海での協働作業・共同生活でEQを短期間に伸ばしやすい

EQは、達成すべき目的のために、自分の感情をコントロールできたり、周囲の感情を理解したり、相手の気持ちに共感できるという自分の感情を管理する能力ともいえます。

私たちは、EQには上記のような特

徴があり、セイルトレーニングによって効果的に伸ばすことができる能力として着目し、EQをベースとしたコンピテンシー(行動特性)を測定する検査指標に設定しました。

STSJのセイルトレーニングでは、この検査を乗船時と下船時に参加者全員に実施し、EQ理論に基づいたコンピテンシー(行動特性)を測定し

ます。測定項目は、ポジティブ思考力/ストレス対処力/コミュニケーション能力/セルフコントロールなど、全部で9項目あります。

「心の中」という見えないものを「可

視化」することで、参加者が自身の成長を実感し、その後の日常生活の中で意識することが可能になります。EQによって自分の可能性を引き出し、周囲との協調といった社会的スキルを伸ばすことができるのです。私たちSTSJでは、子供から大人へと成長していく10代後半の青少年を中心に、EQという視点から「自分の感情」を客観的に捉え、プラスの方向へ導く手助けをします。同時に「他人の感情」を尊重し、仲間を思いやる自分の中の気持ちに気付くことのできる場として、セイルトレーニング体験の機会を提供していきたいと考えています。



## 帆船『あこがれ』上海航海 調査結果

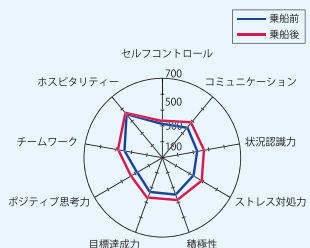
帆船『あこがれ』(大阪市所有/セイル大阪運航管理)で行く大阪~上海航海に乗船する公募高校生29名の協力を得て、セイルトレーニングの青少年に及ぼす教育効果の測定・分析を下記の要領で行ないました。

- 航海期間: 2010年7月19~26日 7泊8日
- 航海経路: 大阪南港~瀬戸内海~東シナ海~上海(中華人民共和国)
- 航海形態: セイル大阪・長期航海(研修型)
- 対象者: 大阪府下 公募高校生29名
- 乗組員: セイル大阪クルー11名、ボランティア6名
- 測定方法: CHEQ【EQベース・コンピテンシー(行動特性)診断】を乗船時と下船時に実施、参加者個々人の乗下船時の各診断項目の遷移を「心の成長」として測定・分析

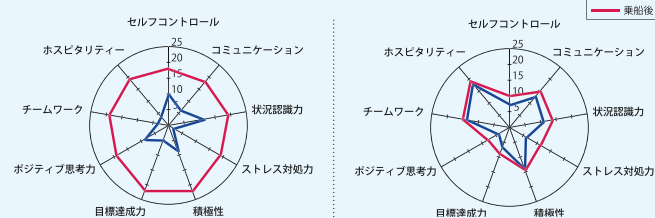
### 【測定結果ならびに分析の概要】

#### 参加者29名の航海前後の意識変化

対象者全体としては、全項目とも航海による向上が確認できました。参加者の感想文からも「有意義であった」という良い評価が多くあったということと行動心理の遷移が良い方向へ変わってきていることから、参加者が多かれ少なかれ心の成長として実感していることを定量的に測定することができました。また、今回の航海は7泊8日という長期航海でしたが航海条件(気象条件、航路)は比較的良好条件で行なわれていました。全体データは、航海日数・航海条件・使用船舶・育成プログラム・育成方法によって大きく変わるといって特徴があり、毎回変化してくるものです。



### 《参加者の個別分析例》



《感想文からの抜粋》  
**■ Aさん (18歳・女性)**  
 はじめのうちはしんどくて嫌だったけど、日頃忘れていることを学ぶことができました。船についても興味が湧いてきたし、マスト登りができたことによって、これからは出来ないことも一度挑戦しようと思いました。

《EQ変化による分析》  
 大きな挑戦を乗り越えられたことによって、新しいことにも積極的にチャレンジしていこうという前向きな気持ちが強くなったようです。同時に自らの役割を強く意識し、つらい場面から逃げることなく責務を果たすために最後まで粘り強く取り組もうとするストレス耐性が高まったと推察できます。さまざまな環境下で他者に依存するのではなく、自らが積極的に役割を果たしていこうとする責任感の高まりが、大きな成長につながっているようです。

《感想文からの抜粋》  
**■ Bさん (17歳・男性)**  
 親が応募したので、面白くなくやる気も出なかったのですが、今は参加できたことを幸せに思っています。精神面で大きく成長でき、今後自立していく上でとても意義がある体験ができました。

《EQ変化による分析》  
 大きな挑戦を乗り越えられたことによって、新しいことにも積極的にチャレンジしていこうという前向きな気持ちが強くなったようです。同時に自らの役割を強く意識し、つらい場面から逃げることなく責務を果たすために最後まで粘り強く取り組もうとするストレス耐性が高まったと推察できます。さまざまな環境下で他者に依存するのではなく、自らが積極的に役割を果たしていこうとする責任感の高まりが、大きな成長につながっているようです。

### 【ワッチ毎による効果の相違について】

航海にあたって「ワッチ」と呼ばれるチーム編成を行ない、ワッチ毎に指導者(ワッチオフィサー)を配置します。主にワッチ単位で行動するセイルトレーニングでは、ワッチオフィサーがトレーニー(参加者)に与える影響力は大きく、このワッチオフィサーのインストラクションスキルによって成果に少なからぬ違いが現れてくると考えています。実際、大きな効果があったワッチのワッチオフィサーの感想には「やり方を教え見守る」「自主的に行動するまで辛抱強く待ち続ける」など、自主性を引き出すための指導方法が具体的に記されていた一方、あまり効果の見えなかったワッチでは各要素で部分的に下がってしまっている事例もあり、効果の大きかったワッチに比べてトレーニーの成長を支援するという姿勢で若干の温度差があった可能性もあります。これらはあくまで推測の域を超えるものではありませんが、インストラクションスキルの養成は重要であり必要だと考えています。

# STSJ沿革

## 2004年

前年（2003年）まで横浜港を母港にセイルトレーニングを行っていた帆船『海星』の元船長・航海士・ボランティアスタッフと教育関係者が中心になって、任意団体・横浜皆援隊として発足。帆船・帆船教育をアピールする目的で活動開始。



帆船『海星』

## 2005年

NPO法人に改組し、2009年の横浜開港150周年までは、横浜市のシンボル帆船『日本丸』をイベントのシンボルにした街づくり推進運動を行い、帆船復活に向けた機運醸成を行う。

## 2008年

『可能性という大海を突き進む帆船（ふね）』を建設コンセプトにしたグローバル本社を事業発祥の地・横浜に戻した日産自動車株式会社様の協賛を得て、帆船『あこがれ』でセイルトレーニングを実施。セイルトレーニングの教育効果を「EQ（心の知能指数）」というモノサシで定量的に測定し、青少年の「心の成長の可能性」を数値データから明らかにする。



帆船『あこがれ』

## 2009年

横浜開港150周年イベントへの『日本丸』起用が果たせず、街づくり推進運動を終了。団体発足の第一義である「青少年教育としてのセイルトレーニング事業の再興」を目指して、NPOとしての定款内容を一部変更し、法人名称を『特定非営利活動法人日本セイルトレーニングスクール』へ変更。

## 2010年

小型帆船『Ami(Amiヨットクラブ所有)』を活用したセイルトレーニングを開始。EQによる教育効果の測定・少人数航海でのトレーニングプログラム開発・インストラクター養成などEQ向上に向けた教育プログラム開発に本格的に着手。帆船『あこがれ』の大阪～上海間7泊8日航海での参加高校生のセイルトレーニング教育効果測定を実施。教育効果の高さを改めて数値的に明らかにする。



帆船『Ami』

## こんなことをしています！（事業紹介）

- セイルトレーニングによる「心の成長」をサポートします
  - ◎ これまで：帆船『あこがれ』や『Ami』貸し切りによるセイルトレーニング事業を実施、中・高校生中心に青少年の内面的成長を支援。多くの参加者にとって、困難を乗り越える経験はその後の生活や人生をも左右する貴重なキッカケになっています。
  - これから：引き続き貸し切りを中心としたセイルトレーニング航海を行ない、セイルトレーニングにより青少年の心の成長をサポートします。ひとりでも多くの方に賛同して頂く努力を続け、STSJ独自の帆船入手を目指します。
- セイルトレーニングの教育効果を調査研究、指導者を養成します
  - ◎ これまで：貸切航海時にCHEQという検査による意識調査を行ない、



「心の変化」を定量的にとらえることでセイルトレーニングの効果を検証。データの蓄積と共に精度も高まり、その有効性が明らかになってきています。また、指導者育成のガイドラインや独自のトレーニングプログラムを開発中。

- これから：他の帆船運航団体と協力、より多くのデータを集め信憑性を高めます。また、指導者育成のガイドラインを完成させ実際の育成に取り組みます。

### 3. 海洋環境についての教育、調査研究をおこないます

- ◎ これまで：エコセイルに関する調査を開始。
- これから：エコセイルに関する調査の継続と、航海中に可能な実験を取り入れるなど、海洋環境保護機関との協働も視野に入れた今後の展開を検討します。



## サポーター募集！

### メンバーになって活動に参加しませんか？

実際のNPO活動に直接参加し、NPOの運営、事業のサポートをさせていただける方を広く募集しています。振込用紙にご記入の上、右記銀行口座へご送金いただければ、会員証、缶バッジの他、最新のニュースレター等を送らせていただきます。また、活動予定や事業報告をメールまたは郵送にてお送りします。皆さまからの年会費収入は、運営経費に充当させていただきます。その他詳しくはホームページをご覧ください。

◆ サポート会員（年会費 ¥3,000）  
セイルトレーニングの実施、広報、資金面での支援など、ご自身の活動できる範囲内で活動に参加いただけます。

◆ 社員（年会費 ¥10,000）  
サポート会員の活動に加え、社員総会での議決権を有することで、事業運営に関しても積極的に参加していただけます。

※ 年会費は1 - 12月事業年度となります。入会金は不要です。

## 募金にご協力ください

### さまざまな形で協力していただける方を求めています

STSJでは、皆様からの寄付を募っています。心の豊かな社会性のある青少年へ成長する機会を一人でも多くの子供たちへ提供するため、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

ご寄附いただいた皆さまには、缶バッジ、ポストカード（ご送金時）の他に事業終了時に事業報告書をお送りさせていただきます。また、損金算入（企業の場合）税額控除（個人の場合）が可能なよはま夢ファンドを通じた横浜市への寄附制度もごございますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

【ゆうちょ銀行振替口座】00280-4-49179（特非）日本セイルトレーニングスクール



[STSJ NEWSLETTER] Volume I, Issue1 | 編集・発行：NPO法人日本セイルトレーニングスクール | 2011.5.31

特定非営利活動法人日本セイルトレーニングスクール 〒220-0021 神奈川県横浜市西区桜木町7-42 学校法人八洲学園内

TEL: 045-584-1920 | FAX: 045-584-1921 | E-MAIL: info@stsj.org | BLOG: http://blog.canpan.info/stsj | URL: http://www.stsj.org